



日本遺産

鎮守府

横須賀・呉・佐世保・舞鶴
 日本近代化の躍動を体感できるまち

遺産No. 22-09-03
 佐鎮

★22 海軍防備隊・警備隊砲台群

田島岳高射砲台電波探信儀跡

Remains of Radar for Antiaircraft Guns Battery
 on Mt. Tajima

この施設は電波探信儀（レーダー）跡を野外ステージとして改造したものである。中心には日本海軍が初めて実用化した対空射撃用の仮称4号電波探信儀1型（41号電探）1基が装備されていた。すり鉢状の地形は山や建物、海面や地面からの反射波を防ぐ掩体である。レーダーの開発が遅れていた日本海軍は戦利品として手に入れた連合軍のレーダーを参考に昭和18年（1943）夏頃に試作に成功し、国内やラバウルでの実用試験を経た昭和19年（1944）11月に国内で初めて田島岳高射砲台に装備された。昭和20年（1945）6月の佐世保空襲では14回の電測射撃を記録している。

This outdoor stage used to be a radar site for the battery. It had a Mk.41 radar, the first surface-to-air radar developed by the Imperial Japanese Navy, at the center. The mortar-shaped terrain blocked the reflected waves from mountains, buildings, the sea surface and the ground surface. Though Japanese Navy radar technology was behind that of the Allies, it succeeded in assembling a prototype radar based on a captured Allies' one in summer 1943. After practical trials in Japan and Rabaul, the Navy's first radar in Japan was equipped in the antiaircraft guns battery on Mt. Tajima in November 1944. During the Sasebo Air Raid in June 1945, 14 shootings using the radar were recorded.



田島岳高射砲台と同型の仮称4号電波探信儀1型

佐世保市内で撮影されたものであり、田島岳高射砲台もしくは奥島高射砲台（大十九島観音公園の場所にあった）に装備されていたものである。G11Cが昭和21年（1946）に作成した調査報告書『Survey of Japanese Antiaircraft Artillery』に掲載されていた。フィリピン戦での戦いで入手したアメリカ軍のSCR268型レーダーを母体とし、改良を加えたものであるため報告書では「SCR268型のコピー」と記述されている。

平成31年（2019）3月29日 佐世保市教育委員会

Official website 中道雄 啓云

